

世帯と人口

(5月1日現在)

世帯 47,595
 人口 124,051人
 男 63,251人
 女 60,800人

行政経営課
 (☎235・4698=直通)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 市長室

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎(046)231・2111(代) ㊟(046)233・9118

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

市庁舎

排出物ゼロをめざして

循環型社会システム構築へ

市では環境にやさしい活動に積極的に取り組むため、環境マネジメントシステムを構築し、平成13年10月にISO14001の認証を取得しました。また、今年4月からは、事業系ごみのさらなる削減を図るため、多量排出者(一定量以上を排出する事業者)の指定基準を強化し、ごみの減量化・資源化を指導しています。その中で、市役所も一つの事業所として、15年度から市庁舎や中央公民館などでごみゼロ(ゼロエミッション)に取り組んでいます。



市庁舎各階の湯沸室に分別ボックスを設置

市庁舎の排出物の分別品目

品目	分別品目	処理方法
1 電算用紙等	紙類	再生用紙やティッシュペーパー、ダンボールなどの紙製品
2 保存文書	紙類	再生用紙やティッシュペーパー、ダンボールなどの紙製品
3 コピー用紙	紙類	再生用紙やティッシュペーパー、ダンボールなどの紙製品
4 Mペーパー	紙類	再生用紙やティッシュペーパー、ダンボールなどの紙製品
5~7 裁断紙・新聞書	紙類	再生用紙やティッシュペーパー、ダンボールなどの紙製品
8 布類	繊維原料等	繊維原料等
9 ペットボトル	PET	樹脂原料等
10 缶類	金属資源等	金属資源等
11 生ごみ	肥料	肥料
12 電池類	資源	資源
13 食事の後始末	資源	資源
14 金属類	製鉄原料	製鉄原料
15 ビン類	ガラス原料	ガラス原料
16・17 プラスチック・発泡スチロール	固形燃料(RPF)	固形燃料(RPF)
18・19 木片類・吸殻	固形燃料(RPF)	固形燃料(RPF)
20 RPF原料	固形燃料(RPF)	固形燃料(RPF)
21 磁気テープ等	資源	資源
22 陶磁器ガラス類	製鉄原料等	製鉄原料等
23 備品類	資源	資源
24・25 皮革・ゴム	資源	資源

※溶融スラグ=焼却灰を1400℃以上の高温で加熱・溶融し、その溶融物を冷却・固化したもの。現在は埋め立て処分されているが、近い将来路盤材などにリサイクル可能となる見込み。

製造工程で出るごみ 別分野の産業資材に

ゼロエミッションとは、1992年にブラジルで開催された地球サミット・国連環境開発会議で「持続可能な開発(環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考え)」が採択されたことを受け、1994年に国連大学が提唱した構想です。

産業の製造工程で出るごみを、別分野の産業の資材とし、排出物をゼロに近づける取り組みをいい(エミッションは英語で「排出」の意味)、海老名市の場合には資源化率(排出物の総量に対する再資源化した量の割合)を指標にしています。

昨年度は資源化率94・6%

市庁舎のゼロエミッションへの主な取り組みとして、分別ボックスや搬出場所を設置し23種類(18年度からは25種類)に分別品目を細分化したほか、事務用品のリユース

排出物の減量が重要

市では現在、平成20年度までに資源化率99・5%以上を達成し、ゼロエミッション宣言することを目標にしています。まず「排出物の量を減らす」ことが大切で、リデュース(ごみの減量)・リユース(再使用)・リサイクル(再資源化)の3Rをキーワードに、物を購入する段階から廃棄するときのことを考え、かつ、長期使用・有効利用に取り組んでいます。

また、この取り組みが地域社会に広がり、循環型社会システムの構築につながればと考えています。

管財課 (☎235・8451)



事務用品のリユースに取り組んでいます